

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、当機構の活動にご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございました。

当機構も設立後4度目のお正月を迎えました。

昨年は、環境省のマスタープランづくりに加えて、地球環境助成金のカキ礁調査を新たに実施しました。有明海の環境を護る大事なカキ礁は以前に比べて減少しており、今後、復元のための努力が必要となってきた状況にあります。

当機構にとって、有明海再生のための調査・研究が新たな段階に入っていくこととなりますが、カキ礁の復元やデータベース整備を始め、再生に向けての具体的な実証実施テスト等を行っていく必要があるものと考えております。

本年度も有明海再生に向けての着実な歩みを続けて参りたいと考えております。

ご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



NPO法人 有明海再生機構 理事長 楠田 哲也

有明海講座 開催のお知らせ【入場無料】

CPDS認定
講習会

有明海を多くの方に知っていただく機会として毎年好評いただいている、有明海の自然や生態を題材とする「有明海講座」を今年度初めて平日に開催いたします。

- テーマ:有明海の赤潮
- 講師:九州大学農学研究院 本城凡夫名誉教授
- 日時:2月19日(木) 14:30~16:00
- 会場:アバンセ4階 第一研修室
- 定員:70名

参加を希望される方は、氏名・連絡先(電話又はFAX番号)を記入の上、メール又はFAXで必ずお申込み下さい。
なお、定員を越える場合は、お断りする場合がありますので、お早めに申込みをお願いします。

カキ礁現地調査報告

平成20年10月13日(月・祝日)に有明海佐賀県東部漁場でカキ礁の実態調査を行いました。

今回の調査は、カキの生育状況を観察し、カキの生育地を把握することによって、その重要性を肌で感じるとともに、今後のカキ礁の回復、有明海再生への住民の理解と協力意識を深めることを目的として、調査参加募集を一般の方に広く呼びかけました。

当日は30名の参加者と図で示している地点一箇所を実態調査を行いました。

底質の状況はカキ殻底質でした。大きいカキ殻が多くありましたが、生息しているカキは極めて少なく、生息しているのは小さなカキばかりでした。その他、アサリ、ウネナシトマガイ、コケガラス、アカニシ、ガザミ、イシガニ、ケフサイソガニ、多毛類などが確認されました。

参加者からは、「実際にカキ礁に上陸し目で見て触れて、有明海の現状をしっかりと認識した。想像以上に生物がいなくてびっくりした。再生の必要性を強く感じた。」等の感想をいただきました。

今回調査した地点のカキが死んだ原因は解明されておらず、今後の調査の必要性を強く感じました。

当日の調査の様子がNHK「ニュースファイル佐賀」と「おはよう九州沖縄」で放送されました。



調査の様子

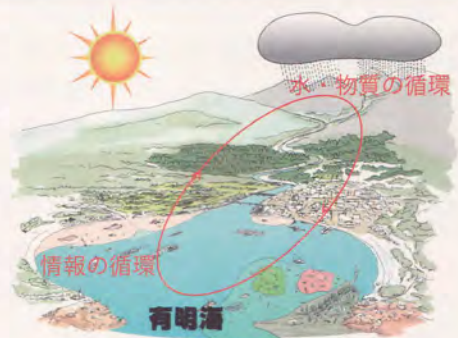


カキコ
有 1055
早津江支所
干潮 14:01
高さ 0.9m

各分科会、勉強会の取組状況を紹介します。

当機構では、有明海の再生への検討については、山～川～海という物質循環の観点から、陸域、干潟域、生産（海域）ごとに専門家で構成される分科会で具体的に進めています。

また、有明海の潮流の変化が、環境省総合調査評価委員会においても指摘されているものの明らかにされていないので、H18に潮流解析勉強会を立ち上げ、検討を進めています。



陸域分科会

【活動方針】 陸域からの汚濁負荷、栄養塩類、土砂などと有明海との関連について検討を進めます。

■これまでの主な取組

○ 既存資料での検討

- ・「有明海流域下水道整備総合計画基本方針」等を参考に汚濁負荷、栄養塩類に関して検討
- ・「筑後川における土砂動態調査」等を参考に土砂に関して検討

○ 環境省マスタープラン策定作業に合わせて陸域からの検討すべき視点について討議

○ 公開陸域分科会の開催

■平成20年度の取組

○ 陸域流出負荷における有機炭素及びリンの組成に関する研究

筑後川、緑川において洪水時の水質サンプルを分析し、リン酸態リン（P04-P）と溶存態無機リン（DIP）濃度の関係、懸濁態有機炭素（POC）とCODの間の変換係数を求める。

○ 有明海流総計画データのGISによるデータベース化

「有明海流域別下水道総合計画」で集められたデータをGISで整理し、関連研究者が陸域からの汚濁負荷、栄養塩類などと有明海との関連を容易に検討可能にするためのデータベースを構築し公開する。

干潟分科会

【活動方針】 過去から現在までの底質環境の変遷を把握するための調査、解析を実施し、底質再生の見通しを明らかにします。

■これまでの主な取組

○ 干潟・浅海域における底質の物質循環に関する研究（佐賀県からの委託）

- ・干潟、底質のサンプル採取、分析等
広域的調査
鉛直分布調査

堆積相解析、貝化石分析、全有機炭素分析、安定同位体分析、微量物質分析、年代測定工学特性分析、生態系分析

- ・モデルパラメータに係る現地データ収集
- ・分析結果の評価

○ 公開干潟分科会の開催

■平成20年度の取組

○ 干潟・浅海域における底質の物質循環に関する研究（佐賀県からの委託）

- ・未調査海域の調査（柳川沖）
- ・モデルパラメータに係る現地データ収集
- ・過去100年間程度の有明海奥部の環境変遷史シナリオの検討

生産分科会

【活動方針】 過去の漁業生産の推移を分析し、資源の再生産の点も考慮し、ノリ、貝類の生産量が適当であったと思われる時点を選定し、生産目標を設定します。
また、それを支えていた海域環境を、砂干潟、泥干潟など海域の特性を踏まえ、望ましい環境目標として設定します。

■これまでの主な取組

○ 過去の漁業生産の推移分析

○ 生産目標の設定

- ・サルボウ 10,000t
- ・アサリ 7,000t

○ 漁業者ヒアリング調査の実施

既往の統計値や科学的データでは十分に把握できない有明海の環境変化について、有明海の過去からの変遷に詳しい漁業者や水産研究を対象に聞き取り調査を実施（報告書作成）

○ 現在の漁業生産の現状と課題分析

- ・サルボウ ・カキ ・アサリ

■平成20年度の取組

○ 生産目標に向けた取組

サルボウの資源管理

○ 貝類の浄化機能及び栄養塩(窒素・リン)の除去機能調査

サルボウ、タイラギ、アサリ、アゲマキ

○ 生物生息モデルへの支援策の検討

○ カキ礁調査

カキ礁とカキ礁生息生物の実態調査

潮流解析勉強会

【活動方針】 ①現状把握 特に表層流と底層流及び流向、②過去との比較検証（沿岸・諫早湾干拓、筑後大堰の影響）、③シミュレーションモデルの検証のための調査、など過去の資料を用いて現状との比較研究を行うとともに、過去に行われた沿岸干拓などの影響を比較検証し、潮流回復に向けた提言を模索します。

■これまでの主な取組

○ 既存潮流調査資料での検討

- ・六角川河口堰資料に基づく過去の潮流速との比較検討
- ・佐賀県有明水産振興センター係留系機器観測資料に基づく検討

○ 最近の潮流・潮汐研究

- ・有明海の潮流パターンならびに物質輸送の変化

■平成20年度の取組

○ 潮流観測データの解析

底層の貧酸素化の一因として指摘されている密度成層の形成状況、及びその経年変化を把握することを目的として検討を行う。

○ 諫早湾における現地観測

諫早湾の成層化水質・底質に大きな影響を及ぼすと考えらる調整池からの排水の挙動を把握すること、それと同時に成層状況の観測を行い諫早湾の成層状況に関する時空間的な情報を得ることを目的として現地観測を実施する。

○ 数値シミュレーションによる検討

諫早湾内や有明海湾奥部の成層化に与える諫早湾調整池からの排水の影響を緩和することを目標として、排水手法の改善に関する検討を実施する。



探しています!!

- 過去100年程度の有明海の環境変遷（半年でもOK!）
- 底質分布図
- 有明海に関するSHAPEファイル形式環境情報

ご提供いただける方は、有明海再生機構事務局へご一報ください。（電話0952-26-7050）

支援会員の活動紹介 (有明海の再生を願い当機構の活動を支援してくださっている会員の皆様)

第5号 日本建設技術 株式会社 様

有明海的环境保全のために産官学の共同研究を行っています!

弊社はこれまでワイン瓶などの廃棄ガラスをリサイクルした発泡ガラス材の開発を進めてきました。その用途は斜面や屋上の緑化、軽量盛土、水質浄化などの分野で“多目的環境材料”としてその有効性を見出しています。さらに、表面をゼオライト化する技術などの付加価値を持たせた発泡ガラス材の開発（科学技術振興機構、佐賀大学との共同研究）についても成功しており、循環型社会の確立に向けて邁進しています。



弊社は発泡ガラスの技術を有明海的环境保全のために、独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構、佐賀大学、佐賀県有明水産振興センターおよび民間2社との共同研究を5年間（平成13年度～17年度）行ってきました。さらに、現在は九州大学、佐賀大学、熊本大学を中心（全体で10機関）とする有明海の共同研究（平成17年度～21年度）に参画しています。このように弊社は研究開発型の企業であるとともに将来の地球環境を見据え、あらゆる環境問題に取り組んでいきたいと考えます。

<お問い合わせ>

日本建設技術株式会社 唐津市北波多徳須恵 1417-1 TEL: 0955-64-2525 ホームページ: <http://www.nkg-net.co.jp/>

支援会員の活動紹介 (有明海の再生を願い当機構の活動を支援してくださっている会員の皆様)

第6号 株式会社 戸上電機製作所 様

～海苔加工水のリサイクルを通じて水資源の有効活用に貢献～

近年の海苔加工事業の大規模集約化に伴い、大量の水資源が必要になってきています。そこで、有効な水資源の有効活用を念頭に、すき水浄化再利用システムの提供を行っております。皆様のおかげで、佐賀県南部地区を主に多くの機器を納入させて頂いております。

以前より海苔加工業界向けに、板海苔加工時の厚み均質化のための機器で、戸上の“ノーチョー”の愛称で、多くの皆様よりご愛顧いただいております。

弊社も、有明海沿岸にて事業展開している企業として “宝の海”の再生を願うとともに、有明海に関係する皆様方のますますのご発展を祈念しております。



[ノーチョー]

<お問い合わせ>

株式会社 戸上電機製作所 佐賀市大財北町1 ホームページ: <http://www.togami-elec.co.jp>

支援会員募集のご案内 ※詳しくは事務局までお問い合わせください。

有明海再生機構では、当機構の趣旨に御賛同いただき、活動を支援して下さる支援会員(企業・団体・個人)を募集しております。

年会費: **企業・団体…一口 5万円** **個人…一口 1万円**

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
カキ礁復元に向けての活動を今年度も継続していきたいと思っております。
この一年が皆様にとって、有明海にとって幸多き年でありますように。
今年もどうぞよろしくお願いたします。(空)

発行

NPO法人 有明海再生機構事務局

〒840-0041 佐賀県佐賀市内1-5-14 佐賀県自治会館4階

TEL (FAX兼用): 0952-26-7050

E-mail: npo-ariake@ceres.ocn.ne.jp

ホームページ: <http://www.npo-ariake.jp/>

※H20.8、事務所移転で住所が変わりました。電話(FAX)はそのままです。